

# 高知大学 病院ニュース

〔編集〕  
高知大学病院ニュース  
編集委員会  
委員長 清水 恵司  
〔発行人〕  
高知大学医学部附属病院  
病院長 倉本 秋

## 新年度にあたって

病院長 倉本 秋

3月になって、国立大学法人評価委員会から、中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果が送られてきました。大学評価・学位授与機構による評価の対象は学部ですから、附属病院の評価はこの報告書だけです。高知大学病院の平成16年から19年までの4年間については、表1のような項目が特記できると評価されました。総論的には、先端医療の臨床研究開発、自己資金調達による医療機器整備、高知ヘルシステムなど地域医療機関との連携もあげられています。私たちの病院の評価は、全国的に見てもかなりのレベルにあります。

私たちの病院は、一緒に働ける人を増やしながら、しかも経営面では黒字を続けてきた稀有な病院です。看護師さんの離職率は一般的な10%を割り込んで、

3.6%まで低下しました。結果として、輸液路確保などの業務を医師から看護師に移行することができました。この5年半、病院長として具体的な数字や数値目標を掲げたことはありませんから、職員全体で業務を改善し、県民に信頼される実績を上げ、病院が患者さんに愛されてきた結果です。

このような取組みをより積極的に行っていくすぐ先に、高知大学病院の未来は広がっています。病院ニュース122号でお知らせした病院機能評価受審と、124号でご説明した病院再開発の確定が、新年度の主な課題になります。そして6月までに第2期中期計画の策定です。すでに多くのみなさんの努力によって、いずれも準備が滞りなく進められており、何の心配もありません。昨年度、病院は「接遇・マナーの向上のための目標」を掲げましたが、本年度は「職員間の連携を図り、こころのこもった安全な医療を提供する」という、ある意味原点に戻った目標を達成したいと思います。

そしてこの1年間、初めて数値目標をあげさせていただきます。それは在院日数17日未満です。ここ1年間の平均在院日数が18.1日、20年度の下半期では17.6日になっています。0.6～1.1日の減を達成できれば、稼働率は場合によっては1～2%下がっても大丈夫と考えます。どうやら在院日数17日未満は、私たちの病院が持っている先進医療件数(医科分で現在6件、さらに1件申請中)、また現在進行形の「診療の質の明示」などとともに、大学病院の大きな評価項目になりそうです。22年度以降のみなさんの高知大学病院のためにどうか実現をお願いします。

表1

- 県や地域の病院と協力して特色ある地域保健・医療のプログラムを提供
- 研修医ルームや研修しやすい環境を整備
- 診療技能やコミュニケーション能力の教育 + 「家庭医道場」
- 看護師の静脈注射研修やキャリアアップ支援
- 自己資金調達によるPETセンターや健全運営
- ニーズに応える「午後外来」
- 検査部のISO 9001取得など品質向上、業務改善の取組み
- 病院長による経営状況説明会や診療科ヒアリング
- 後発医薬品の採用や経費削減方策

# 病院機能評価受審を1回で合格しましょう!

病院機能評価受審院内ワーキング 宮井 千恵

いよいよ平成21年度が始まりました。病院機能評価の11月受審に向けて、各現場で具体的に取組み、1回での合格目指して頑張らしましょう。

部署の皆様のご協力により、2月中に各部署での自己評価を終えることができました。今後は、自己評価項目で2点、或はC評価となっている項目について、ワーキングと部署の連携により、計画的に確認・改善を進めて

いきます。ほとんどの項目は評価を充たしていますが、全部署で取組みが必要な主な事項を下記に挙げました。院内ワーキング担当事務から問い合わせもありますのでよろしくお願いたします。

なお、領域5のケアプロセスについては、各部署で取組みを進めていって下さい。

## ■全部署で取組みが必要な主な事項について

領域	内容	方策
1.1.1.1 1.1.1.2 5.1.1.1 1.2.2.3	理念および基本方針の確立 病棟における診療・看護の基本方針や目標が明確 目標の達成度を評価	病院の目標決定: 『職員間の連携を図り、こころのこもった安全な医療を提供する』 医師・看護師共同で部署の目標を設定(4月中) 目標達成度評価(9月、3月)
1.5.1.1	職員を対象とした教育・研修の実施	全職員を対象とした教育計画について、サービス向上WGで作成している年間スケジュール表に掲載し職員に広報(4月中)
1.7.2.2	患者や職員に対して禁煙の啓発や教育	禁煙外来および禁煙に関する講演会の開催(可及的速やかに)
2.1.2.1 2.1.2.2 2.1.2.3 5.1.3.1	臨床における倫理に関する方針が明確 主要な臨床倫理の課題を明確 日々の診療における臨床倫理の課題、収集、分析 臨床における倫理的課題の認識、検討、記録	臨床倫理、職業倫理指針を作成(4月中) 臨床研究における研修会開催(3月) 倫理的課題の明確化、医師・看護師等で検討した記録が必ず必要 脳死、DNR、輸血拒否等への対応等について病院として業務マニュアルを作成する(4月中)
4.1.1.3	診療および業務上の指針・手順の整備	各診療科で使用しているガイドラインを調査し把握する(4月) レジメン、抗菌薬マニュアル等確認と整備(4月)
4.12.4.1	ドナーカード保持者の意思尊重	総同意書にドナーカード所持の有無を確認する欄を設ける(次回印刷時)
5.2.2.2	診療計画の変更時の患者さんへの説明	診療計画が大きく変更された時や看護計画変更時は入院診療計画の《変更》を使用する。看護計画変更は看護計画変更説明書を使用しても良い。
5.2.3.1	指示出し・指示受けが適切 指示は転記がない、或は転記された場合は医師が内容を確認し署名	指示を転記しない方法を検討 左記事項を医療事故防止マニュアルに追加し転記した場合医師の確認方法をルール化
5.3.1.3	多職種によるケアカンファレンスの実施	多職種によるカンファレンスを開催 記録方法を統一(紙媒体への簡単な記録、電子カルテ記載、スキャナー取り込みも可能に)
5.4.1.1 5.4.4.3	診断的検査について十分な説明と同意 手術・麻酔について十分な説明と同意	各種同意書に看護師の立ち会いが必要な検査・処置等を明確化する
5.6.1.4	記載された診療録・看護記録の評価 質的点検がされ、フィードバックされている	診療科での点検手順(誰が何日以内に何を)と、その後診療録管理士による点検の手順を明文化する 看護記録も監査手順を明文化する

## 低侵襲手術教育・トレーニングセンター

低侵襲手術教育・トレーニングセンター長  
小林 道也

病院の中期目標・中期計画のひとつに低侵襲手術教育・トレーニングセンターの開設がありました。3月にトレーニングセンターのハード面、ソフト面が一通りそろいましたのでご報告いたします。

約1年前病院長より、私に低侵襲手術教育・トレーニングセンター開設に向けて検討するように指示がありました。現実には予算、場所などについて確約されたものではありませんでした。以前、外科(1)の荒木京二郎名誉教授が研究棟1階に手術トレーニングラボを作られていましたが、あまり活用されていませんでした。今回この部屋を刷新+リノベーションする予定といたしましたが、その後、ワーキンググループで議論を重ねた結果、最終的には研究棟2階の暗室としてこれまで使用していた部屋を低侵襲手術教育・トレーニングセンターとすることになりました。以前の手術トレーニングラボの2倍近い



面積です。しかし、研究棟のこれらの部屋は現在、全学の総合研究センター、生命・機能物質部門に属しており、この部門会議にお願いして低侵襲手術教育・トレーニングセンターとしての使用許可を頂戴致しました。

内装を一新し、カンファレンスや講義ができる環境と、ドライラボとしての機能を兼ね備えたトレーニング室となりました。ドライラボには内視鏡外科の結紮縫合練習器を5台そろえ、技術認定試験のビデオ撮影が出来るようにしました。また、CVカテーテル挿入モデル(鎖骨下、鼠径)、内視鏡機器と大腸内視鏡トレーニングモデルなども導入いたしました。中でも目玉といえるのはLap Mentor®というヴァーチャル手術トレーニング機器です。これは、通常のhand eye coordination のトレーニング

だけでなく、腹腔鏡下胆嚢摘出術やS字状結腸切除術の手術、婦人科手術をコンピューター画像で行うことができるシミュレーターです。実はイスラエルの軍事産業技術が平和利用された機械です。平成20年12月26日に正式に納入されました。おそらく結腸、婦人科のソフトまでそろえた最新バージョンは日本全国でも最初の導入と思います。Tactile sensation(触覚)もあり、万一血管を損傷した際には実際に画面上で出血し、胆嚢を損傷した際には黄色い胆汁も流れ出します。中高生を対象とした外科手術体験セミナーでも利用しており好評です。医学科の学生教育、研修医の教育に活用

していきたいと思っております。また、昨年から行っている手術室の看護師さんを対象とした“内視鏡外科教育セミナー”(名前は今付けました!)でもLap Mentor®を利用し、実際の手術の模擬体験をしていただこうと思っています。現代のIT技

術を駆使し、患者さんの手術に臨む前に術者の技術レベルを確認し、より安全な手術を行い、さらにスキルアップに結び付けていけるものと思っております。

今後、新しいトレーニング室を利用して院内の内視鏡外科手術のトレーニングセミナーなども企画していきます。学内だけではなく、広く高知県、さらには四国各県の先生方にも利用していただきたいと思います。各教室の関連病院の先生方のご要望に沿い、時間などの調整をさせていただきますので、興味をお持ちの先生方はぜひ活用していただければ幸いです。これにより高知県の内視鏡外科を中心とした低侵襲手術のさらなるレベルアップを期待しております。



### 平成21年度 病院ニュース編集委員会委員名簿

(任期:平成21年4月1日~平成22年3月31日)



- |                          |                           |
|--------------------------|---------------------------|
| ◆ 委員長 清水 恵司 (脳神経外科 科長)   | ◆ 委員 濱田 篤秀 (薬剤部)          |
| ◆ 副委員長 加藤 邦夫 (神経科精神科 科長) | ◆ 委員 多田 邦子 (看護部 副部長)      |
| ◆ 委員 西永 正典 (老年病科 准教授)    | ◆ 委員 西田 浩敏 (総務管理課 課長補佐)   |
| ◆ 委員 前田 博教 (外科[2] 講師)    | ◆ 委員 都築 泰仁 (医療サービス課 課長補佐) |



## 職場紹介 放射線科

文責：小川 恭弘

附属病院の放射線部門には、診療科の一つとして「放射線科」があり、また、中央診療施設の一つとして「放射線部」があります。放射線科は主に医師の集団であり、放射線部は診療放射線技師の集団でもあります。ここでは、放射線科医を主体として紹介します。放射線部門における教員の定員は10名であり、放射線医学教室・

放射線科に7名、放射線部・PETセンターに3名の配属となっております。

院内の放射線科医は現在19名であり、この4月から片岡先生が幡多けんみん病院に出向し、18名となります。放射線科医の週間スケジュール

表は、前週末には各関連部署に配布されます。その診療内容は多岐にわたり、半数以上のマンパワーは中央診療部門としての放射線部に属し、病院全体のCT、MRIやPET-CT、また、血管造影、放射線治療にあっております。したがって、慢性的な人手不足が続いており、若い先生方の放射線科また放射線診療への参加を切に望んでおります。

PETセンターには、福本センター長以下、大西副センター長、耕崎病院助教の3名がおり、放射線部CT部門には副部長の濱田学内講師、中谷医員を主体として、また、MRI部門では村田助教を主体として、血管造影・IVRでは伊藤助教、山西助教、八尋医員、放射線治療部

門では小川、西岡准教授、刈谷学内講師が放射線科はもとより各科の患者さんの診療にあたっております。

また、放射線科の診療としては、今話題の「増感放射線療法KORTUC」ばかりでなく、乳がんの乳房温存療法、肝臓癌などに対する経動脈的化学塞栓療法(TACE)、肺がん・食道がんなどに対する放射線療法、甲状腺が

んの放射性ヨード療法などを行っております。

放射線科の外来は、月曜日から金曜日まで毎日の診療を行い、とくに火曜日、水曜日、木曜日は多くの患者さんで混雑し、市川さん、門田さんの両看護師さんが大活躍

しております。なお、セカンドオピニオンは予約制となっております。金曜日の午前中に適宜、対応可能です。

放射線科の病床としては、3階西病棟に25床を使用させて戴いており、病棟医長の久保田講師、田村看護師長以下、植病院助教、都築病院助教、田所医員、宮武医員、岩佐医員たちが大いに頑張っております。

また、放射線科医局では、事務担当の品川さん、事務補佐員の世宮さんが事務作業の他に、「がん患者相談」の窓口となっております。電話番号は088-880-2367です。

このような放射線科を、最大限にご活用のご程、宜しくお願い申し上げます。



### 診療状況

区分	外来	入院	
	延患者数	延患者数	稼働率
1月	20,460人 (新来1,541)	15,078人	80.4%
2月	19,626人 (新来1,485)	15,103人	89.2%
	院外処方せん 発行率	紹介率 (診療報酬上の紹介率)	
1月	77.60%	61.4%(54.5)	
2月	78.10%	64.9%(55.5)	

### 編集後記

大学病院敷地内の桜が、今年も見事に咲きました。

3月で大学病院を去られる方には感謝の気持ちを、入職される方には歓迎の笑顔に向けてくれているように感じます。

今号では、低侵襲手術教育・トレーニングセンターやFUS、職場・病棟紹介など当院の“強み”となるニュースが満載されています。

また病院機能評価受審に向け、病院機能評価受審院内ワーキング委員長の宮井看護部長が「1回で合格」という決意を述べ、部署で取り組みが必要な項目が掲載されています。WBCでは侍Japanが大いに日本中を盛り上げてくれました。あのチームワークに負けないよう、各職種間の連携を強め「受審」に向け取り組んでいけたらと思います。今年度も病院ニュース、広報「こはすくん」をよろしくお願いいたします。

(文責 看護部 岡林安代)